

# 健康第一

■ 2013 第 26 号 ■



当院の基本理念

## 地域社会との融和

基本方針

1. 地域社会に特色ある医療を担う。  
(女性医療・がん医療・腎臓病・生活習慣病に専門性を発揮する)
2. 利用者が納得する医療を提供する。
3. 心の通う医療を目指す。



# 診療科紹介

# 『乳腺外科』

乳腺外科では、健康管理センターでの乳がん検診、検診精密検査機関としての診断・治療（手術・術後薬物療法）を軸に日々診療をしています。

### 【乳がん検診】

併設の健康管理センターにおいては月曜日から金曜日の午前中は自費検診、生活習慣病予防健診、市民健診の乳がん検診を行っています。木曜日の午後は乳がん自費検診 *Ladies Day* として女性検査技師、女性医師が担当しております。また、10月に行われるマンモグラフィーサンデーでは普段お仕事等で忙しい方に対し、日曜検診も行っております。

### 【乳腺外科外来】

検診で要精密検査になった方、乳房に気になる症状がある方に診察・画像検査を行います。さらなる検査が必要な方に対しては造影MRI、画像ガイド下吸引式針生検、コア針生検で診断をすすめます。

### 【治療・手術】

当院の乳癌手術症例数は年々増加しています（図1）。臨床的腋窩リンパ節転移陰性例に対するセンチネルリンパ節生検においては、より高い同定率をめざし色素法、RI（ラジオアイソトープ法）の併用法での同定を行い、術中検査はより高い正診率を目指して2010年よりOSNA法（One step Nucleic acid amplification 法）を導入しました。

### 【治療・薬物療法】

当院では、外来化学療法センターを設置しており、リクライニングシートとベッドを備えています。乳がん薬物療法の副作用の一つである静脈炎を回避し、治療中の生活の質を保つために皮下埋没カテーテル留置を積極的に行っています。

### 【その他】

診断・治療のどの過程においても受診者の方が安心できるよう、専門医・認定医・がん化学療法看護認定看護師・乳がん看護認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師・がん治療専門薬剤師・理学療法士、その他多くの職種がチームで治療にあたらせていただきます。乳がん治療中の「こころとからだおしゃれ教室」やアロマセラピーも行っており、患者様が楽しみながら通院できるよう、日々検討中です。



当院の乳がん手術症例数の推移（図1）



## スタッフ紹介

### 常勤医師



病院長  
田中 真紀



乳腺外科部長  
山口 美樹

### 嘱託医師



外科系顧問  
磯邊 真

### 非常勤医師



よこやま外科乳腺クリニック 副院長  
横山 吾郎



医療法人 YanagaClinic 院長  
矢永 博子



久留米大学医学部  
医学科外科学講座 助教  
三島 麻衣



金子 祐子

### 乳腺チーム カンファランス・セミナー予定

火曜日午前	乳がん術後療法検討会
水曜日午前	化学療法症例検討会
金曜日午後	乳腺術前カンファランス

第3水曜日	乳腺画像病理診断会（CPC）
第4水曜日	乳腺セミナー

## Topics 遺伝性乳がんについて

病院長 田中 眞紀

女性にとって、乳がんは大きな関心事です。今年の5月に発表されたアメリカの女優アンジェリーナ・ジョリーさんのニュースはセンセーショナルな話題となりました。乳がん発症に関わる遺伝子を持つことが分かり、両側乳腺切除と乳房再建を行ったと発表し、さらに卵巣卵管切除を行う予定とも伝えられています。

乳がんの家族歴があるから、特殊な遺伝子があるからといって必ず乳がんになるわけではありません。遺伝性乳がんとは、遺伝子が原因で乳がんを発症した場合はいいます。乳がん全体の5～10%といわれています。乳がん・卵巣がんでは、現在のところBRCA1とBRCA2という2つの遺伝子がみつかり、これらの遺伝子に変異を起こした場合、高率にがんを発症します。

BRCA1陽性の場合には若年発症の乳がんが多く、40歳を過ぎての卵巣がんのリスクが高まります。また、ホルモン感受性（エストロゲンレセプター・プロゲステロンレセプター）やHer2蛋白発現のない所謂トリプルネガティブ乳がんといわれる乳がんの割合が高い特徴があります。一方、BRCA2では通常の乳がんと変わらず多くの場合ホルモン感受性を持っています。

遺伝子の検査は採血検査ですが、保健診療の適応がありませんので、約25万円の自己負担となります。遺伝子検査の結果が心理的に及ぼす影響を考慮して、検査を受ける前には遺伝カウンセリングを受けることをお勧めします。

遺伝子変異があった場合、乳腺切除手術は90%の予防ができますが、これも保健診療の適応ではありません。それに、必ず乳がんを発症するとは限りません。まず、20歳頃から自己検診を行い、通常の検診開始年齢(40歳)より若い25歳頃から毎年マンモグラフィやMRIによる検診(自費検診)を受けることが勧められています。すでに乳がんを発症している人は反対側乳房や温存手術後の乳房を定期的に検査することが大切です。

今後は、遺伝子疾患の研究がますます進歩するでしょう。それに伴い、遺伝子発見が社会的な差別につながらないように法的体制の準備も必要となります。



### 【遺伝性乳がんの可能性がある方】

- ・家系内に乳がんや卵巣がんの患者が複数いる
- ・若年で発症している
- ・乳がんと卵巣がんの両方にかかったことがある
- ・両側性、多発性の乳がん
- ・トリプルネガティブ乳がん
- ・男性乳がん

▶▶ 当院は2013年7月9日、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 乳房再建用インプラント/エキスパンダー実施施設に認定されました。



# リハビリテーションセンター 紹介



リハビリテーション科部長  
整形外科部長  
安藤 則行

リハビリテーションセンターでは、整形外科医の安藤 則行先生を4月より迎え、「理学診療部」から「リハビリテーションセンター」へ名称を変更し新たにスタートしました。安藤先生は日本リハビリテーション学会認定臨床医であり、さらにスタッフも2名増員、5名の理学療法士が患者さんへのリハビリを行っています。私たちは、より親しまれやすく利用しやすい環境で、患者さんにリハビリを行っていただけるよう努めています。

リハビリ診療では、病気やケガ、手術後、あるいは高齢により体力や運動機能が低下した方々それぞれの症状に応じて、運動器疾患リハ・呼吸器疾患リハ・脳血管疾患等リハビリテーションを提供しております。5月からは「がんリハビリテーション」の施設基準も取得し、田中病院長をチームリーダーとして診療の幅を拡充しています。

「がんリハビリテーション」では、患者さんが持つ疼痛や疲労、日常生活動作能力や筋力の低下などの一般的な問題だけでなく、運動麻痺やリンパ浮腫、呼吸障害、摂食・嚥下障害、末梢神経炎、軟部組織や骨切除後など、がんの種類による特別な問題に対して二次的障害を予防し、運動機能・生活機能の低下予防・改善を目的にリハビリ診療を行います。特に、乳がん術後のリハビリテーションでは、リンパ浮腫について自作のDVDを使用し、患者さん自身でリンパマッサージを行えるよう、リンパ浮腫発生の予防にも取り組んでいます。

※写真の患者モデルは、スタッフが演じています。



体のバランスを見ながらの腕の運動



リンパマッサージ



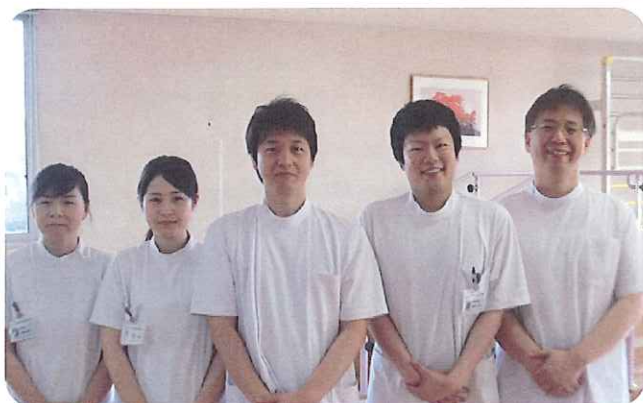
自作DVDを使用したリンパ浮腫予防の説明



肩関節の運動



鏡を見ながら肩関節の運動



私たちが皆さんのリハビリを行います

中野 郁子 吉弘 圭伊 係長 松尾 健一 野中 正大 藤木 英敏



リンパマッサージ指導

## 部門紹介

# 外来化学療法センター

外来化学療法センターでは、安全で快適な医療を提供することを目的に医師・がん化学療法看護認定看護師・がん専門薬剤師および専任看護師5名がチームとなり、患者様の治療を行っています。

6月からは久留米大学病院がん集学治療センターの三輪 啓介先生（日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医）に週1回お越しいただき、患者様の診察を行っています。

当センターをご利用の患者様の9割が乳腺疾患の女性です。年齢層は幅広く、お仕事をお持ちの方、ご年配の方、お子様をお持ちの方と、それぞれに「社会、家庭での役割、環境」がありますが、予約制で治療を行いますので、患者様のライフスタイルに配慮した治療スケジュールが可能です。

私たちは、「これから自分はどうなるの?」「副作用は?」といった皆様からのご質問に丁寧にお答えしています。患者様がこれからの自分を理解し受け入れることができるよう、ゆっくり時間をかけてお話をさせていただいています。

これからも患者様の心に寄り添い、支えになれる存在でありたいと思います。



がん化学療法  
看護認定看護師  
時里 玉栄



係長  
野口 ひろみ



がん専門薬剤師  
葉田 昌生



薬剤師  
三上 忠司



専任看護師

## 部門紹介

# 手術センター

手術センターは、現在5室稼働しています。常勤医師2名、非常勤医師6名、看護師10名、臨床工学技士1名が業務に携わっています。2012年の手術症例数は1,349例でした。各診療科の手術が日々行われていますが、なかでも乳がん手術症例数は354例で全国でもトップクラスです。また、婦人科・消化器外科の腹腔鏡手術も積極的に行っており、症例数が増加しています。

看護師が術前に患者様の病室にお伺いし、問診を取ったり手術に関する説明を行って、不安や疑問を少しでも軽減できるように努めています。術前にお聴きしたお好きな音楽や持参されたCDの音楽を手術室で流して、患者様がリラックスできるような取組も行っていきます。手術後は病室に訪問し、患者様の回復状況の確認や患者様の声をお聴きしています。

私たちは、患者様に安心して手術を受けて頂けるように術前から術後までの一貫したお世話をさせて頂いております。また、良質な看護の提供を目指して定期的に勉強会を開催し、院内の他職種との連携を図りながら、チーム医療を展開していきたいと思っています。

患者様やご家族の方が安心して、安全に手術が受けられるようにスタッフ一同、これからも協力して頑張ります。



副院長  
(麻酔科部長)  
杉山 和英



麻酔科医長  
園田 真由



手術センター看護師



# 委員会紹介

# 『化学療法委員会』

がん治療においては、チーム医療なくして遂行できません。そのうえで、チーム間での「情報の共有」は治療を安全に遂行するために重要なポイントとなります。「情報の共有」について各診療科はもとより、診療科をまたいで病院全体で取り組む一環として化学療法委員会を原則、月に一度開催しています。

メンバーは、化学療法に携わる各診療科の医師、管理職、各病棟の看護科長、外来化学療法センター看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、医事課など多職種が参加します。委員会の主な議題は、以下のとおりです。



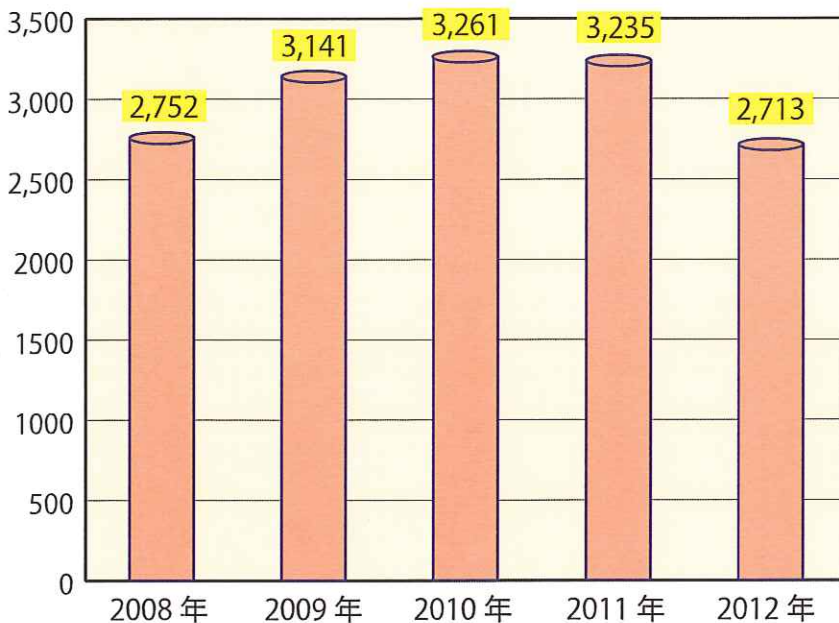
委員長 山口 美樹

- \*各病棟、外来化学療法センターでの月間延べ患者数の把握
- \*安全に治療が行われたかの確認
- \*問題点の提起
- \*新規薬剤、医薬情報変更点の情報提供
- \*治療メニューの内容についてのチェック



委員会を限られた時間で効率よく開くために、事前に各職種から議題をがん化学療法看護認定看護師が収集しています。また、勤務上の都合で欠席となった委員がいた場合でも院内電子メールを活用して議事録を閲覧できるようにしています。

今後も、安心して安全な化学療法について議論を重ねていきたいと考えています。



外来化学療法患者数の推移



化学療法カンファレンスの様子



外来化学療法センター内



# がいそ 慢性咳嗽外来の開設について

「長引く咳」は、患者さんが医療機関を受診する理由のうち最もポピュラーな症状のひとつです。そのような場合、胸部レントゲン写真で何らかの異常がみられれば診断への糸口が得られることが多いのですが、レントゲン写真で異常がみられない場合にはかえって診断や治療が難しいこともあり、そのような患者さんを適切かつ早期に診断・治療することは、呼吸器科医師の重要な役割です。



## 診療日および担当医

**診療日** 火曜日の午前・水曜日の午前、午後  
(予約は必要ありません。)

**担当医** 火曜日の午前： 古賀 智絵 / 北里 裕彦  
水曜日の午前： 北里 裕彦 / 平原 奈奈  
水曜日の午後： 末安 禎子 / 北里 裕彦



呼吸器内科スタッフ

北里 裕彦 古賀 智絵 平原 奈奈 平井 良

※他の医療機関ですでに治療を受けているにも関わらず症状が改善しないという患者さんは、できればその医療機関から紹介状を書いていただいた上で受診されることをお勧めします。

当院では、胸部レントゲン写真で異常がみられないのに咳が長引く患者さん（慢性咳嗽）に対し、当科で独自に作成した問診票や血液検査・呼吸機能検査・画像検査などを用いて診断、治療を行うシステムをとっております。

長引く咳に苦しんでいる患者さんや、そのような患者さんの診療にお困りの先生方にとって、少しでもお役に立てることができれば幸いです。

### 約2週間後の再来時における咳嗽の改善率 (2012年11月～2013年1月)

- 明らかな改善（咳が10分の3以下に減少）： **68.8%**
- 中等度改善を含めた改善率： **81.3%**

古賀 智絵ほか：『胸部X線写真で異常を認めない遷延性 / 慢性咳嗽患者の臨床的検討』（2013年4月19～21日 第53回日本呼吸器学会学術講演会にて発表）



・演題 ・演者	・学会名
『LADG後のTUCS B-I法再建 その手技と成績』 村上直孝、橋口俊洋、五反田幸人、村上大悟、山口美樹 磯邊眞、田中眞紀、武田仁良、緒方裕、白水雄	第68回日本消化器外科学会総会
『(ランチョンセミナー)AI使用患者の骨密度マネジメント 座長』 田中眞紀	第21回日本乳癌学会学術総会
『ポスター討議「両側乳癌、その他」 座長(レビューワー)』 田中眞紀	第21回日本乳癌学会学術総会
『(看護プレナリーセッション1)手術を受ける患者の看護 座長』 坂口まさみ	第21回日本乳癌学会学術総会
『(検診診断プレナリーセッション2) DCISの放射線療法』 淡河 恵津世、唐 宇飛、田中 眞紀	第21回日本乳癌学会学術総会
『孤在性乳頭腫から発生する癌/異型上皮は実在するか?』 山口倫、田中眞紀、山口美樹、高崎恵美	第21回日本乳癌学会学術総会
『mucocele-like tumors/lesionsと同時・異時乳癌との関連性についての検討』 高崎恵美、田中眞紀、村上直孝、五反田幸人、橋口俊洋 磯邊眞、山口倫	第21回日本乳癌学会学術総会
『糖尿病患者の周術期管理から化学療法に向けてのチーム連携 ～管理栄養士の立場から～』 黒田直美、山口美樹、田中眞紀	第21回日本乳癌学会学術総会
『術中捺印細胞診とOSNA法の併用によるセンチネリンパ節術中診断における診断不一致例の検討』 山口美樹、田中眞紀、村上直孝、五反田幸人、橋口俊洋 高崎恵美、磯邊眞、横山吾郎、山口倫	第21回日本乳癌学会学術総会
『臨床データをいかに個人の研究にいかすか -データベースの活用とその在り方-』 矢野紋子、田中眞紀	第21回日本乳癌学会学術総会
『デジタルマンモグラフィ第2章 ソフトコピー診断 「ソフトコピー施設画像評価 体験談」』 中原博子	第19回 九州乳房画像研究会
『二次性副甲状腺機能亢進症(2HPT)に対するシナカルセット(CH)の効果の持続性の検討』 枝國節雄、黒川佑佳、南浩	第58回日本透析医学会総会
『災害発生時の情報伝達方法についての一考察-患者向けAction cardに纏わる評価-』 箴島一順、古賀友理子、黒川佑佳、枝國節雄、南浩	第58回日本透析医学会総会
『金属ステント留置で大腸癌イレウスを解除できた血液透析患者の1例』 黒川佑佳、枝國節雄、松隈則人	第58回日本透析医学会総会
『研究とは～抄録、論文の書き方～』 猿渡 倫治	第21回福岡県臨床工学会
『当院におけるステレオガイド下マンモトーム生検の問題点-検査時間短縮に向けての一考察-』 秋葉ナオミ、中原博子、山口薫、野田幸代、松尾美穂 大村智美	福岡県診療放射線技師会
『経口剤によるがん薬物療法 ～薬剤師ができることを考える～』 葉田昌生	第8回 熊本がん医療薬学研究会
『ビスフォスフォネート系薬剤における副作用対策について』 葉田昌生	大牟田薬剤師会 講演会



・演題 ・演者	・学会名
『全職員を対象とした模擬心臓マッサージの実施と実施後のアンケート調査報告』 古賀友理子、入部直子、篠島一順、森田博彦 杉山和英	第2回筑後地域救急医療研究会
『アナログからデジタルへ、そしてソフトコピーに向けて-知っておくこと、今から取り組むこと-』 中原博子	第1回長崎県乳房撮影技術研究会
『福岡県における透析患者の入院リスクに関する研究』 猿渡倫治	第14回日本健康支援学会
『胸部X線写真で異常を認めない遷延性/慢性咳嗽患者の臨床的検討』 古賀智絵、北里裕彦、平井良、三木康行、南秀和、池堂ゆかり、川山智隆、南浩 白日高歩、星野友昭	第53回日本呼吸器学会学術講演会
『ポスターセッション 乳癌非浸潤癌の術後のイベントについての検討』 山口美樹	第113回日本外科学会定期学術集会
『診療報酬に反映される外科専門医制度とチーム医療づくり』 田中真紀	第113回日本外科学会定期学術集会
『LADG後の自動吻合器による経膈的Billroth- I 法再建 (TUCS B- I 法)』 村上直孝	第85回日本胃癌学会総会
『5か月の経過で皮膚発赤を伴った浸潤性乳癌の一例』 橋口俊洋	第10回日本乳癌学会九州地方会
『乳管腺腫の診断で経過観察中に増大、摘出生検で嚢胞内癌と診断された1例』 高崎恵美	第10回日本乳癌学会九州地方会
『乳癌診断時の骨転移による高カルシウム血症での緊急治療例』 山口美樹	第10回日本乳癌学会九州地方会
『一般演題:手術』 山口美樹	第10回日本乳癌学会九州地方会
『(ランチョンセミナー) アブラキサンの特徴を生かした治療戦略 ~日常診療における位置付けと治療継続のコツ~』 田中真紀	第10回日本乳癌学会九州地方会
『(ランチョンセミナー) 乳癌の最新情報 -疫学から分子標的治療まで-』 田中真紀	第8回ファーマシューティカルケアシンポジウム

### ◆ 著書・発表論文

2013年1月~2013年7月

・タイトル ・著者	・掲載誌
『腹部エコーによる同定が困難であった左卵巣繊維腫によるtrue-Meigs症候群の1例』 三木康行、北里裕彦、麻生佳愛、奥川馨、古賀智絵、平井良、伊勢信治、吉見通洋 田尾義昭、高田昇平、南浩、星野友昭	月刊 臨床と研究 別冊, Vol.90
『Streptococcus equisimilis感染により急激な進行で絶命に至った劇症型β溶連菌感染症の一例』 平井良、北里裕彦、松隈則人	日本病院総合診療医学会雑誌, Vol.4
『花田先生の緩和ケア-患者に学ぶケアの実践-(著作)』 ・在宅ケアで最期を迎えた乳がんの高齢女性 ・4年間の闘病生活に倒れた乳がんの中年女性 監修:原 寛, 医学と看護社 (共同執筆) 田中真紀	
『ピンクリボン運動を始めとする全国乳がん啓発活動実態調査-日本乳癌検診学会広報委員会ピンクリボン活動小委員会予告-』 島田菜穂子、太田代紀子、佐久間浩、笹三徳、宮良球一郎、田中真紀	日本乳癌検診学会誌, Vol.22
『日本のすみずみまで適時適切な情報発信を-広報委員会ニュースメールの目指すもの-』 村上茂、石田孝宣、大竹徹、竹下茂樹、村田陽子、山川卓、田中真紀	日本乳癌検診学会誌, Vol.22

・タイトル ・著者	・掲載誌
『Fibrotic Focus in Breast Carcinomas: Relationship with Prognostic Parameters and Biomarkers』 S Shafaq Mujtaba, Yun-Bi Ni, Julia Y.S. Tsang, Siu-Ki Chan, <b>Rin Yamaguchi</b> , <b>Maki Tanaka</b> Puay-Hoon Tan, and Gary M. Tse	SURGICAL ONCOLOGY online, 2013
『Efficacy of goserelin plus anastrozole in premenopausal women with advanced or recurrent breast cancer refractory to an LH-RH analogue with tamoxifen: Results of the JMTO BC08-01 phase II trial』 REIKI NISHIMURA, KEISEI ANAN, YUTAKA YAMAMOTO, KENJI HIGAKI, <b>MAKI TANAKA</b> KENJI SHIBUTA, YASUAKI SAGARA, SHINJI OHNO, SHIGERU TSUYUKI, TAKAHIRO MASE and SATOSHI TERAMUKAI	ONCOLOGY REPORTS, Vol.29
『Treatment When Prognostic Factors Do Not Match St.Gallen Recommendations: Profiling of Prognostic Factors among HR(+) and HER2(-) Breast Cancer Patients』 <b>Kyoko Satoh</b> , <b>Maki Tanaka</b> , <b>Ayako Yano</b> , Jiang Ying, Tatsuyuki Kakuma	World Journal of Surgery, Vol.37
『過敏性肺炎』 <b>北里裕彦</b> , 岡元昌樹, 田尻守祐, 川山智隆, 星野友昭	医学と薬学 Vol.69
『福岡県の透析医療における地域格差の検証 Regional variations in healthcare services for patients treated by Hemodialysis in Fukuoka』 <b>猿渡倫治</b> , 西巧, 馬場園明	医療福祉経営マーケティング研究 Vol.7
『胆内胆管癌との鑑別が困難であった良性胆内胆管狭窄の1例』 <b>高橋龍司</b> , <b>武田仁良</b> , <b>磯邊真</b> , <b>田中眞紀</b> , <b>篠崎広嗣</b> , <b>山口美樹</b> , <b>津福達二</b> , <b>堀内彦之</b> <b>中島収</b> , 白水和雄	日本消化器外科学会雑誌 Vol.46



## 乳がん患者会「くちなし会」総会が開催されました

当院の乳がん患者会「くちなし会」の総会は毎年1回、くちなしの花が咲く頃に開催されます。今年も6月15日（土）に開催され、多くの乳がん患者さんが参加されました。病院からは田中病院長、杉山副院長、山口乳腺外科部長ほか外科医師、麻酔科医師、川崎看護局長やコメディカルスタッフが参加させていただき、くちなし会の皆さんと楽しい時間を過ごしました。



田中病院長



杉山副院長



山口乳腺外科部長



川崎看護局長



コメディカルスタッフ



New Face  

**新入職者紹介**

2013年6月入職 ◆医師

**麻酔科**



**【資格】**  
 日本産科婦人科学会産婦人科認定医

**【コメント】**  
 こんにちは。麻酔科勤務の園田と申します。特に緩和ケアを中心に活動いたします。癌と診断された方たちの心や身体の痛みに寄り添い、少しでも支えになれるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

麻酔科医長  
**園田 真由**

**一般・消化器外科**



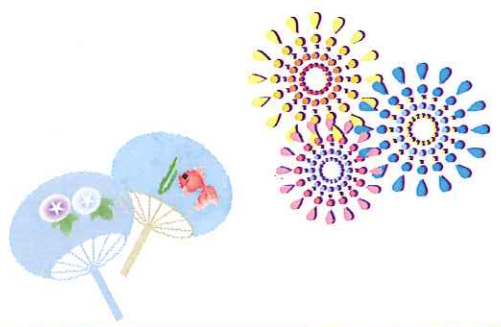
**【コメント】**  
 前任者に代わり、6月から外科に着任いたしました田中夏樹です。皆様のご期待に応えられるように日々精進し、患者様には最善の医療を提供したいと考えております。よろしくお願いいたします。

外科医員  
**田中 夏樹**

▶▶医師交代のおしらせ

【2013年6月1日付】

- ・一般・消化器外科 五反田 幸人医師から田中 夏樹医師へ
- ・麻酔科 園田 真由医師（入職）




**病院名称の変更について**

2014年4月、

**独立行政法人 地域医療機能推進機構 久留米総合病院**

に名称を変更いたします。

**【日本語表記】**

独立行政法人地域医療機能推進機構  
 (地域医療機構)

**久留米総合病院**

**【英語表記】**

**JCHO (Japan Community Health care Organization)**

**Kurume General Hospital**



新診療棟完成予定図



# 7月～9月の主な院内スケジュール（予定）

※網かけの項目は患者様対象の教室です。詳細は、ホームページ「教室のご案内」をご参照ください。

日時	内容	講師
7月1日（月） 17時30分	医局抄読会	
7月2日（火）	糖尿病性腎症教室第3回	
7月3日（水）	骨盤底筋体操教室	
7月3日（水）	救急看護研修	筑後市立病院 看護次長 深野 加代子氏
7月8日（月）	救急症例検討会	消化器内科 安本 紗代医師 呼吸器内科 古賀 智絵医師
7月5日（金）	糖尿病教室（試食会）	
7月8日（月）～ 18日（木）	糖尿病教室 ※13日（土）・14日（日）・15日（祝）は休み	
7月17日（水）	骨盤底筋体操教室	
7月17日（水）	乳腺画像病理診断会（CPC）	
7月24日（水） 17時30分	乳腺セミナー	
7月25日（木） 17時30分	糖尿病セミナー	
7月31日（水）	第17回乳がんこころとからだおしゃれ教室「口腔ケアについて」	
7月31日（水）	検査部勉強会「クレアチニン測定の課題・eGFR」	（株）シノテスト 西田氏
8月2日（金）	糖尿病教室（試食会）	
8月4日（日）	久留米水の祭典 <b>夜のパレードに参加します！！</b>	
8月5日（月） 17時30分	医局抄読会	
8月5日（月）～ 15日（木）	糖尿病教室 ※10日（土）・11日（日）は休み	
8月7日（水）	骨盤底筋体操教室	
8月18日（日）	透析患者学習会	
8月19日（月） 17時30分	医局抄読会	
8月21日（水）	骨盤底筋体操教室	
8月21日（水）	乳腺画像病理診断会（CPC）	
8月28日（水） 17時30分	乳腺セミナー	
8月29日（木） 17時30分	糖尿病セミナー	
9月2日（月） 17時30分	医局抄読会	
9月4日（水）	骨盤底筋体操教室	
9月6日（金）	糖尿病教室（試食会）	
9月9日（月）～ 19日（木）	糖尿病教室 ※14日（土）・15日（日）・16日（祝）は休み	
9月18日（水）	骨盤底筋体操教室	
9月18日（水）	乳腺画像病理診断会（CPC）	
9月25日（水） 17時30分	乳腺セミナー	
9月26日（木）	糖尿病性腎症教室第1回	
9月26日（木） 17時30分	糖尿病セミナー	

編集後記

夏本番になりました。猛暑続きですが、8月には夏の風物詩「久留米水の祭典」や「筑後川花火大会」が開催されます。夏ならではのイベントもしっかり楽しんで、暑さを吹き飛ばしましょう！  
来年度より当院は、新機構へ移行し病院名も変更になります。広報委員会では、移行に向けてより効果的な情報発信ができるよう努めてまいります。今後よろしくお願いいたします。（広報委員会）

## 社会保険久留米第一病院

〒830-0013 福岡県久留米市櫛原町 21 番地  
TEL：0942-33-1211 FAX：0942-32-0113  
2013年7月発行 発行責任者：病院長 田中 真紀  
編集：広報委員会